



CHAPTER 7

Cisco SCE8000 プラットフォームの基本操作

はじめに

この章では、Cisco SCE8000 プラットフォームを起動、リブート、およびシャットダウンする方法について説明します。また、設定の管理方法についても説明します。

- 「Cisco SCE8000 プラットフォームの起動」 (P.7-1)
- 「Cisco SCE8000 の設定の管理」 (P.7-4)
- 「SCE プラットフォームのバージョン情報の表示」 (P.7-9)
- 「SCE プラットフォームのコンポーネントの表示」 (P.7-11)
- 「システム動作期間の表示」 (P.7-15)
- 「SCE プラットフォームのリブートおよびシャットダウン」 (P.7-15)

Cisco SCE8000 プラットフォームの起動

ここでは、Cisco SCE8000 プラットフォームの起動手順について説明します。

- 「システム起動前の確認」 (P.7-1)
- 「複雑な設定作業の実行」 (P.7-2)
- 「システムの起動および初期状態の確認」 (P.7-2)
- 「最終テスト」 (P.7-3)

システム起動前の確認

Cisco SCE8000 プラットフォームを起動する前に、次の条件を確認してください。

- 両方の電源装置が搭載され、接続されていること（電源装置が 1 つだけ接続されている場合は、警告ステートになります）
- インストール時の初回起動：
 - Cisco SCE8000 プラットフォームがローカル コンソール（CON ポート）に接続されていること
 - コンソール端末の電源がオンになっていて、正しく設定されていること

- 2 回目以降の起動：
 - 回線インターフェイスが正しくケーブル接続されていること（任意）
 - Cisco SCE8000 プラットフォームが、次のタイプの管理ステーションの少なくとも 1 つに接続されていること：
 - ローカル コンソール（CON ポート）：直接接続
 - リモート管理ステーション：LAN（MNG ポート）接続

複雑な設定作業の実行

Cisco SCE8000 プラットフォーム ハードウェアの取り付け、すべての外部接続のチェック、システム電源の投入、システムの起動、および初期システム設定を行ったあと、このマニュアルに記載されていない複雑な設定作業を行わなければならない場合があります。

システムおよびインターフェイス設定の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『[Cisco SCE8000 10GBE Software Configuration Guide](#)』
- 『[Cisco SCE8000 CLI Command Reference](#)』

システムの起動および初期状態の確認

Cisco SCE8000 プラットフォームを設置してケーブルを接続したら、次の手順を実行して Cisco SCE8000 プラットフォームを起動します。

-
- ステップ 1** 電源コードが Cisco SCE8000 プラットフォームに接続されていることを確認します。
 - ステップ 2** AC 電源装置のケーブルを AC 電源に差し込むか、または DC パネルの回路ブレーカーをオンの位置に設定します。両方の電源装置のスイッチをオンにします。
 - ステップ 3** ファンの音が聞こえることを確認します（作動音がすぐに聞こえるはずです）。
 - ステップ 4** 起動プロセス中に、SCE8000-SCM-E の次の LED を確認します。
 - POWER LED がグリーンに点灯します。
 - Cisco SCE8000 でバイパスが有効の場合、OPTICAL BYPASS LED がグリーンに点灯します。バイパスが無効の場合は消灯します。
 - 起動中は、STATUS LED がオレンジに点灯します。起動に成功すると、STATUS LED がグリーンに点灯します。



(注)

Cisco SCE8000 の起動には数分間かかります（STATUS LED がオレンジからグリーンに変わるまで）。

次の作業

起動手順の各ステップを完了できない場合は、「[起動時の問題の特定](#)」(P.8-6) に進んで、トラブルシューティングの推奨事項および手順を参照してください。

最終テスト

ここでは、Cisco SCE8000 が適切に機能しているかどうかを確認する最終テストの実行手順について説明します。

- 「動作ステータスの確認」(P.7-3)
- 「ユーザ ログ カウンタの表示」(P.7-3)
- 「10 ギガビット イーサネット ポートの状態の表示」(P.7-4)
- 「10 ギガビット イーサネット カウンタの表示」(P.7-4)

動作ステータスの確認

すべてのポートを接続したら、Cisco SCE8000 が警告状態でないことを確認します。

ステップ 1 サービス コントロール モジュールの前面パネルで、STATUS LED がグリーンになっているのを確認します。

ステップ 2 システムの動作ステータスを表示するには、Cisco SCE8000# プロンプトで **show system operation-status** を入力し、Enter を押します。

システムの動作ステータスを示すメッセージが表示されます。システムが適切に動作している場合は、次のメッセージが表示されます。

```
System Operation status is Operational.
```

STATUS LED がレッドまたはオレンジに点滅している場合は、次のメッセージが表示されます。

```
System Operation status is Warning
Description:
1. Power Supply problem
2. Line feed problem
3. Amount of External bypass devices detected is lower than expected amount
```

ユーザ ログ カウンタの表示

インストール プロセス中に発生したエラーに関するユーザ ログを表示します。

SCE# プロンプトで **show logger device user-file-log counters** を入力し、Enter を押します。

ユーザ ログ カウンタを表示する例

次に、現在の User-File-Log のデバイス カウンタを表示する例を示します。

```
SCE# show logger device user-file-log counters
Logger device User-File-Log counters:
Total info messages: 1
Total warning messages: 0
Total error messages: 0
Total fatal messages: 0
```

「Total error messages」または「Total fatal messages」がカウントされている場合、**show logger device user-file-log** コマンドを使用してエラーの詳細を表示します。

10 ギガビット イーサネット ポートの状態の表示

Cisco SCE8000# プロンプトで、**show interface TenGigabitEthernet 3/ baynumber /0** を入力します。

これによりポート リンクの状態が表示されます。

次に、システム応答例を示します。

```
Cisco SCE8000# show interface TenGigabitEthernet 3/1/0
Actual Status:
Link is on
Bandwidth: 10000000Kbps
Burst-size: 500000bytes
```

10 ギガビット イーサネット カウンタの表示

インライン トポロジでは、Rx 接続と Tx 接続の両方のトラフィックをプラットフォーム カウンタでモニタリングできます。パケットが Cisco SCE8000 を通過するに伴い、Rx および Tx の両方のカウンタが増加します。

ただし、受信専用トポロジでは、Tx のカウンタが増加しません。これは、SCE8000 がトラフィックのモニタリングのみを行い、再送信は行っていないためです。

Cisco SCE8000# プロンプトで、**show interface TenGigabitEthernet 3/ baynumber /0 counters** を入力します。

これにより、TenGigabitEthernet カウンタが表示されます。このコマンドを使用すると、回線上にトラフィックが流れていることを確認できます。Cisco SCE8000 を通過するリアルタイムのパケットフローとともに、カウンタが増加することを確認できます。

BITW トポロジでは、Rx および Tx の両方のカウンタがトラフィック モニタリングの対象となります。受信専用トポロジでは、外部スプリッタを使用するため、Rx カウンタのみ対象になります。

次に、最初の 10 ギガビット イーサネット インターフェイスのカウンタ例を示します。

```
Cisco SCE8000# show interface TenGigabitEthernet 3/0/0 counters
In total octets: 100
In good unicast packets: 90
In good multicast packets: 0
In good broadcast packets: 10
In packets discarded: 0
In packets with CRC/Alignment error: 0
In undersized packets: 0
In oversized packets: 0
Out total octets: 93*2^32+1022342538
Out unicast packets: 858086051
Out non unicast packets: 0
Out packets discarded: 0
```

Cisco SCE8000 の設定の管理

SCE8000 プラットフォーム ハードウェアを設置したあと、すべての外部接続をチェックし、システム電源をオンにします。システムが起動すると、サービス コントロール アプリケーションをインストールすることができます。ただし、このアプリケーションをインストールする前に、SCE プラットフォームの設定が必要になる場合があります。SCE8000 プラットフォームを設定する手順は、このマニュアルでは取り扱いません。

システムおよびインターフェイス設定の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco SCE8000 10GBE Software Configuration Guide』
- 『Cisco SCE8000 CLI Command Reference』

ここでは、Cisco SCE8000 設定の管理手順について説明します。

- 「コンフィギュレーションの表示」(P.7-5)
- 「設定値の保存と変更」(P.7-6)
- 「以前のコンフィギュレーションの復元」(P.7-8)

コンフィギュレーションの表示

入力したコンフィギュレーション コマンドは、SCE プラットフォームの動作およびコンフィギュレーションにただちに影響します。この実行コンフィギュレーション (running-config) は、SCE プラットフォームの揮発性メモリに保存され、SCE プラットフォームが稼動している間有効です。リブートすると、SCE プラットフォームは、ユーザが保存したデフォルト以外のコンフィギュレーションを含む startup-config を、running-config にロードします。

SCE プラットフォームでは、次の機能を持つコマンドが用意されています。

- 実行コンフィギュレーションのユーザ設定値 (デフォルト以外) のみを表示 : **show running-config**
- SCE プラットフォームの実行コンフィギュレーションのデフォルトおよびそれ以外のすべての値を表示 : **show running-config all-data**
- スタートアップ コンフィギュレーションの表示 : **show startup-config**

SCE プラットフォームを設定したあと、**show running-config** コマンドを使用して実行コンフィギュレーションを問い合わせることができます。

ステップ 1 SCE8000# プロンプトで **show running-config** を入力します。

実行コンフィギュレーションが表示されます。

```
SCE8000#> show running-config
#This is a general configuration file (running-config).
#Created on 12:06:13 UTC SUN May 11 2008
#cli-type 1
#version 1
no management-agent notifications notification-list
1417,1418,804,815,1404,1405,1406,1407,1408,400
no management-agent notifications notification-list
402,421,440,441,444,445,446,450,437,457
no management-agent notifications notification-list 3593,3594,3595,10040
snmp-server community "public" ro
RDR-formatter forwarding-mode multicast
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 1 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 2 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 3 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 4 priority 100
interface LineCard 0
connection-mode inline on-failure external-bypass
no silent
no shutdown
attack-filter subscriber-notification ports 80
replace spare-memory code bytes 3145728
interface GigabitEthernet 1/1
ip address 10.56.96.46 255.255.252.0
```

```

interface TenGigabitEthernet 3/0/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/1/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/2/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/3/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"

exit
ip default-gateway 10.56.96.1
line vty 0 4
exit
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.operation"
"Install"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.package" "SCA
BB"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.version"
"3.1.6 build 79"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.date" "Sun
May 11 08:44:04 GMT+00:00 2008"
flow-filter partition name "ignore_filter" first-rule 4 num-rules 32
flow-filter partition name "udpPortsToOpenBySw" first-rule 40 num-rules 21

```

設定値の保存と変更

現在の実行コンフィギュレーションを変更し、その変更内容をシステムの再起動後も有効にしたい場合は、管理セッションを終了する前に変更内容を保存する必要があります。これには、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。

SCE プラットフォームにはコンフィギュレーションおよび管理のためのインターフェイスが複数用意されています。すべてのインターフェイスは、SCE プラットフォームの同じデータベースに対応する API を 1 つ提供しています。特定のインターフェイスを通して行われた変更は、すべてのインターフェイスに反映されます。さらに、任意の管理インターフェイスで実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存すると、コンフィギュレーションに使用された管理インターフェイスに関係なく、すべてのコンフィギュレーションが保存されます。

バックアップ用に、古い `startup-config` ファイルがディレクトリ `/system/prevconf` の下に保存されます。以前のコンフィギュレーションを復元する方法は、「[以前のコンフィギュレーションの復元](#)」(P.7-8) を参照してください。

`running-config` からコンフィギュレーション コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

- ステップ 1** SCE# プロンプトで `show running-config` を入力して、実行コンフィギュレーションを表示します。
実行コンフィギュレーションが表示されます。
- ステップ 2** 表示されたコンフィギュレーションが適切に設定されているか確認します。適切に設定されていない場合は、保存する前に変更します。
- ステップ 3** `copy running-config startup-config` を入力します。

すべての実行コンフィギュレーション情報がコンフィギュレーション ファイルに保存され、システムリブート時に使用されます。

コンフィギュレーション ファイルには、次のディレクトリの *config.txt* ファイルに格納されたシステム デフォルトと異なる情報がすべて保持されています：*/system*

設定値を保存および変更する例

次に、実行コンフィギュレーション ファイルを保存する例を示します（最初にファイルを表示して内容を確認します）。

```
SCE# show running-config
#This is a general configuration file (running-config).
#Created on 12:06:13 UTC SUN May 11 2008
#cli-type 1
#version 1
no management-agent notifications notification-list
1417,1418,804,815,1404,1405,1406,1407,1408,400
no management-agent notifications notification-list
402,421,440,441,444,445,446,450,437,457
no management-agent notifications notification-list 3593,3594,3595,10040
snmp-server community "public" ro
RDR-formatter forwarding-mode multicast
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 1 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 2 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 3 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 4 priority 100
interface LineCard 0
connection-mode inline on-failure external-bypass
no silent
no shutdown
attack-filter subscriber-notification ports 80
replace spare-memory code bytes 3145728
interface GigabitEthernet 1/1
ip address 10.56.96.46 255.255.252.0
interface TenGigabitEthernet 3/0/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/1/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/2/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/3/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"

exit
ip default-gateway 10.56.96.1
line vty 0 4
exit
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.operation"
"Install"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.package" "SCA
BB"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.version"
"3.1.6 build 79"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.date" "Sun
May 11 08:44:04 GMT+00:00 2008"
```

```

flow-filter partition name "ignore_filter" first-rule 4 num-rules 32
flow-filter partition name "udpPortsToOpenBySw" first-rule 40 num-rules 21
SCE# copy running-config startup-config
Writing general configuration file to temporary location...
Backing-up general configuration file...
Copy temporary file to final location...
SCE#

```



ヒント

running-config からコンフィギュレーション コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

次に、実行コンフィギュレーションからすべての DNS 設定を削除する例を示します。

```
SCE(config)# no ip name-server
```

以前のコンフィギュレーションの復元

新しいコンフィギュレーションを保存すると、古いコンフィギュレーションはディレクトリ /system/prevconf/ に自動的にバックアップされます。スタートアップ コンフィギュレーション ファイルは、最大 9 つのバージョンが保存されます。ファイル名は config.tx1 ~ config.tx9 で、config.tx1 が最近保存されたファイルです。

CLI コマンド **more** を使用して、古いスタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示します。

以前のスタートアップ コンフィギュレーションを復元すると、ファイル名が変更されて、スタートアップ コンフィギュレーション (config.txt) ファイルが上書きされます。

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで **more /system/prevconf/config.tx1** を入力して、コンフィギュレーション ファイルを表示します。
- ファイルに格納されたコンフィギュレーション情報が表示されます。
- ステップ 2** コンフィギュレーション情報を参照して、復元するコンフィギュレーションであるかを確認します。コンフィギュレーション復元コマンドは取り消すことができません。
- ステップ 3** **copy /system/config.tx1 /system/config.txt** を入力します。
- スタートアップ コンフィギュレーションに *config.tx1* のコンフィギュレーションが設定されます。
-

以前のコンフィギュレーションを復元する例

次に、保存されたコンフィギュレーション ファイルを表示、復元して、現在の設定を上書きする例を示します。

```

SCE# more /system/prevconf/config.tx1
#This is a general configuration file (running-config).
#Created on 12:07:41 UTC SUN May 11 2008
#cli-type 1
#version 1
no management-agent notifications notification-list
1417,1418,804,815,1404,1405,1406,1407,1408,400
no management-agent notifications notification-list
402,421,440,441,444,445,446,450,437,457
no management-agent notifications notification-list 3593,3594,3595,10040
snmp-server community "public" ro
RDR-formatter forwarding-mode multicast

```



```
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 1 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 2 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 3 priority 100
RDR-formatter destination 10.56.96.26 port 33000 category number 4 priority 100
interface LineCard 0
connection-mode inline on-failure external-bypass
no silent
no shutdown
attack-filter subscriber-notification ports 80
replace spare-memory code bytes 3145728
interface GigabitEthernet 1/1
ip address 10.56.96.46 255.255.252.0
interface TenGigabitEthernet 3/0/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/1/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/2/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"
interface TenGigabitEthernet 3/3/0
bandwidth 10000000 burst-size 50000
global-controller 0 name "Default Global Controller"

exit
ip default-gateway 10.56.96.1
line vty 0 4
exit
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.operation"
"Install"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.package" "SCA
BB"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activated.version"
"3.1.6 build 79"
management-agent property "com.pcube.management.framework.install.activation.date" "Sun
May 11 08:44:04 GMT+00:00 2008"
flow-filter partition name "ignore_filter" first-rule 4 num-rules 32
flow-filter partition name "udpPortsToOpenBySw" first-rule 40 num-rules 21
SCE# copy /system/config.tx1 /system/config.txt
```

SCE プラットフォームのバージョン情報の表示

このコマンドを使用すると、SCE プラットフォームに関するグローバルなスタティック情報（ソフトウェア/ハードウェアバージョン、イメージビルド時刻、システム稼動時間、最終的なオープンパッケージ名、および割り当てられた SLI アプリケーションの情報など）が表示されます。

SCE> プロンプトで **show version** を入力し、Enter を押します。

SCE プラットフォームのバージョン情報を表示する例

次に、SCE プラットフォームのバージョン情報を表示する例を示します。

```
SCE> show version
System version: Version 3.1.6S Build 279
Build time: Jun 10 2008, 19:27:47 (Change-list 335658)
Software version is: Version 3.1.6S Build 279
Hardware information is:
```

SCE プラットフォームのバージョン情報を表示する例

```
-----
Firmware
-----
kernel : [kernel] 1.0.0/5 (inactive: [kernel] 1.0.0/5)
u-boot : [uboot] 1.0.0/6 (field: [uboot] 0.8.1/13)
select : [ubs-cf1] 1.0.0/5 (secondary: [ubs-cf1] 1.0.0/5)
-----
Slot 1: SCM-8000
-----
serial-num : CAT1202G07D
part-num : 73-10598-01 38
cpld : 0x8162
vtpld : 0xc001
summit-0 : 0x10008
summit-1 : 0x10008
dpt/tx : 0x4837
cls/ff : 0x2047
cls flow cap: 33554432

-----
TVR
-----
#cpus : 1
cpu SVR : 0x80900120
cpu PVR : 0x80040202
cpu freq : 1000MHz
cpu (eeprom): 2.1, 1000MHz
cpld : 0xa1b7
cpld-ufm : 0xa803
summit : 0x10007
cf : Model=SMART CF, FwRev=0x20060811, Size=4062240KB
-----
CFC-0
-----
board type : P2
#cpus : 3
cpu-0 SVR : 0x80900121
cpu-0 PVR : 0x80040202
cpu-0 freq : 1500MHz
cpu-1 SVR : 0x80900121
cpu-1 PVR : 0x80040202
cpu-1 freq : 1500MHz
cpu-2 SVR : 0x80900121
cpu-2 PVR : 0x80040202
cpu-2 freq : 1500MHz
cpu (eeprom): 2.1, 1500MHz
cpld-0 : 0xb20e
cpld-1 : 0xb20e
cpld-2 : 0xb20e
cpld-0-ufm : 0xb803
cpld-1-ufm : 0xb803
cpld-2-ufm : 0xb803
summit-0 : 0x1000a
summit-1 : 0x1000a
fc : 0x1044
-----
CFC-1
-----
board type : P2
#cpus : 3
cpu-0 SVR : 0x80900121
cpu-0 PVR : 0x80040202
cpu-0 freq : 1500MHz
cpu-1 SVR : 0x80900121
```

```
cpu-1 PVR : 0x80040202
cpu-1 freq : 1500MHz
cpu-2 SVR : 0x80900121
cpu-2 PVR : 0x80040202
cpu-2 freq : 1500MHz
cpu (eeprom): 2.1, 1500MHz
cpld-0 : 0xb20e
cpld-1 : 0xb20e
cpld-2 : 0xb20e
cpld-0-ufm : 0xb803
cpld-1-ufm : 0xb803
cpld-2-ufm : 0xb803
summit-0 : 0x1000a
summit-1 : 0x1000a
fc : 0x1044
-----
Slot 3: SIP-8000
-----
serial-num : CAT1204G01H
part-num : 73-10947-01
cpld : 0x9162
summit-0 : 0x10006
summit-1 : 0x10006
dpt-0 : 0x3033
dpt-1 : 0x3033
spa[0] : SPA-1X10GE-L-V2
spa[1] : SPA-1XTENGE-XFP
spa[2] : SPA-1X10GE-L-V2
spa[3] : SPA-1XTENGE-XFP
-----
SCE8000 Chassis
-----
product-num : CISCO7604
serial-num : FOX10420BKZ
part-num : 73-9789-02
part-rev : A0
vid : V01
Part number: 73-10598-01 38
Revision:
Software revision:
LineCard S/N : CAT1202G07D
Power Supply type: AC
SML Application information is:
No application is configured.
Logger status: Enabled

Platform: SCE8000 - 4x10GBE
Management agent interface version: SCE Agent 3.1.6 Build 134
Software package file: ftp://ftpserver/simba.pkg
SCE8000 uptime is 9 minutes, 54 seconds
```

SCE プラットフォームのコンポーネントの表示

Unique Device Identification (UDI; 固有デバイス識別情報) は、シスコ製のすべてのプラットフォームでサポートされているベースライン機能です。この機能により、ネットワーク管理者は CLI または SNMP を使用して特定のデバイスをトレースし、リモートからネットワーク資産を管理できます。ユーザは、次のいずれかを使用してリモート デバイスのコンポーネント情報を表示できます。

SCE プラットフォームのコンポーネントを表示する例

- エンティティ MIB (『Cisco SCE8000 10GBE Software Configuration Guide』の付録「Cisco Service Control MIBs」にある「ENTITY-MIB」を参照)
- CLI の **show inventory** コマンド
このコマンドでは、Field Replaceable Unit (FRU) のみの UDI を表示します。
- CLI の **show inventory raw** コマンド
このコマンドでは、Cisco SCE8000 プラットフォームのすべての UDI を表示します。

show inventory CLI コマンドは、次の情報を表示します。

- デバイス名
- 説明
- 製品 ID
- バージョン ID
- シリアル番号

SCE> プロンプトで **show inventory [raw]** を入力し、Enter を押します。

SCE プラットフォームのコンポーネントを表示する例

- 「SCE プラットフォームのコンポーネントの表示 : FRU のみ」(P.7-12)
- 「SCE プラットフォームの全コンポーネントの表示」(P.7-13)

SCE プラットフォームのコンポーネントの表示 : FRU のみ

次に、FRU のみのコンポーネント (UDI) を表示する例を示します。

```
SCE> show inventory
NAME: "SCE8000 Chassis", DESCR: "CISCO7604"
PID: CISCO7604 , VID: V0 , SN: FOX105108X5
NAME: "SCE8000 Service Control Module (SCM) in slot 1", DESCR: "SCE8000-SCM-E"
PID: SCE8000-SCM-E , VID: V0 , SN: CAT1122584N
NAME: "SCE8000 SPA Interface Processor (SIP) in slot 3", DESCR: "SCE8000-SIP"
PID: SCE8000-SIP , VID: V0 , SN: CAT1150G07F

NAME: "SPA-1X10GE-L-V2", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11517RMR

NAME: "SPA-1X10GE-L-V2", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11496E1P

NAME: "SPA-1X10GE-L-V2", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11517RIO

NAME: "SPA-1X10GE-L-V2", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE115295HH

NAME: "SCE8000 FAN 1", DESCR: "FAN-MOD-4HS"
PID: FAN-MOD-4HS , VID: V0 , SN: DCH11013744

NAME: "SCE8000 AC or DC power supply 0", DESCR: "PWR-2700-AC/4"
PID: PWR-2700-AC/4 , VID: V0 , SN: APQ105000MV

NAME: "SCE8000 AC or DC power supply 1", DESCR: "PWR-2700-AC/4"
PID: PWR-2700-AC/4 , VID: V0 , SN: APQ105000MV
```

```
NAME: "XFP-10GLR-OC192SR ", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "  
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1142N4B7  
  
NAME: "XFP-10GLR-OC192SR ", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "  
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1142N4AL  
  
NAME: "XFP-10GLR-OC192SR ", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "  
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1141N43R  
  
NAME: "XFP-10GLR-OC192SR ", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "  
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1143N4JN
```

SCE プラットフォームの全コンポーネントの表示

次に、SCE プラットフォームの全コンポーネント (UDI) を表示する例を示します。

```
SCE> show inventory raw  
"SCE8000 Chassis", DESCR: "CISCO7604"  
PID: CISCO7604 , VID: V01, SN: FOX105108X5  
  
NAME: "SCE8000 Physical Slot 1", DESCR: "Container SCE8000 Service Control Module (SCM)  
slot"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Physical Slot 2", DESCR: "Container SCE8000 Service Control Module (SCM)  
slot"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Physical Slot 3", DESCR: "Container SCE8000 SPA Interface Processor (SIP)  
slot"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Physical Slot 4", DESCR: "Container SCE8000 Optical Bypass slot"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Fan Module", DESCR: "Container SCE8000 Fan Module"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 AC and DC power supply", DESCR: "Container SCE8000 AC and DC power supply"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Link", DESCR: "Container SCE8000 Link"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Backplane", DESCR: "Container SCE8000 Backplane "  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Service Control Module (SCM) in slot 1", DESCR: "SCE8000-SCM-E"  
PID: SCE8000-SCM-E , VID: V01, SN: CAT1122584N  
  
NAME: "SCE8000 SPA Interface Processor (SIP) in slot 3", DESCR: "SCE8000-SIP"  
PID: SCE8000-SIP , VID: V01, SN: CAT1150G07F  
  
NAME: "SCE8000 Link 0", DESCR: "SCE8000 Link"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 Link 1", DESCR: "SCE8000 Link"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""  
  
NAME: "SCE8000 SIP bay 3/0", DESCR: "SCE8000 SIP bay"  
PID: "" , VID: "" , SN: ""
```

SCE プラットフォームのコンポーネントを表示する例

```
NAME: "SCE8000 SIP bay 3/1", DESCR: "SCE8000 SIP bay"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 SIP bay 3/2", DESCR: "SCE8000 SIP bay"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 SIP bay 3/3", DESCR: "SCE8000 SIP bay"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 SPA module 3/0", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11517RMR

NAME: "SCE8000 SPA module 3/1", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11496E1P

NAME: "SCE8000 SPA module 3/2", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE11517RIO

NAME: "SCE8000 SPA module 3/3", DESCR: "SPA-1X10GE-L-V2"
PID: SPA-1X10GE-L-V2 , VID: V02, SN: JAE115295HH

NAME: "TenGigabitEthernet3/0/0", DESCR: "SCE8000 SPA port"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "TenGigabitEthernet3/1/0", DESCR: "SCE8000 SPA port"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "TenGigabitEthernet3/2/0", DESCR: "SCE8000 SPA port"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "TenGigabitEthernet3/3/0", DESCR: "SCE8000 SPA port"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 FAN 1", DESCR: "FAN-MOD-4HS"
PID: FAN-MOD-4HS , VID: V01, SN: DCH11013744

NAME: "SCE8000 AC power supply 0", DESCR: "PWR-2700-AC/4"
PID: PWR-2700-AC/4 , VID: V02, SN: APQ105000MV

NAME: "SCE8000 DC power supply 1", DESCR: "PWR-2700-DC/4"
PID: PWR-2700-DC/4 , VID: V03, SN: APQ1049000S

NAME: "SCE8000 optic 3/0/0", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1142N4B7

NAME: "SCE8000 optic 3/1/0", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1142N4AL

NAME: "SCE8000 optic 3/2/0", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1141N43R

NAME: "SCE8000 optic 3/3/0", DESCR: "XFP-10GLR-OC192SR "
PID: XFP-10GLR-OC192SR , VID: V02, SN: AGA1143N4JN

NAME: "SCE8000 traffic processor 1", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 2", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 3", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 4", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
```

```
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 5", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 6", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 7", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 8", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 9", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 10", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 11", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
PID: "" , VID: "" , SN: ""

NAME: "SCE8000 traffic processor 12", DESCR: "SCE8000 traffic processor"
```

システム動作期間の表示

最後にリポートしてからシステムが稼働している時間の長さを表示するには、このコマンドを使用します。

SCE> プロンプトに **show system-uptime** を入力して、Enter を押します。

システム動作期間を表示する例

次に、SCE プラットフォームのシステム動作期間を表示する例を示します。

```
SCE# show system-uptime
Cisco SCE8000 uptime is 21 minutes, 37 seconds
```

SCE プラットフォームのリブートおよびシャットダウン

- 「SCE プラットフォームのリブート」(P.7-15)
- 「SCE プラットフォームのシャットダウン」(P.7-16)

SCE プラットフォームのリブート

新しいパッケージをインストールしたあとにこれを有効にするには、SCE プラットフォームをリブートする必要があります。また、それ以外にも SCE プラットフォームのリブートが必要となることがあります。



(注) SCE をリブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションがロードされ、実行コンフィギュレーションに対する変更がすべて失われます。「設定値の保存と変更」(P.7-6) の手順に従い、リロードの前に実行コンフィギュレーションを保存します。

- ステップ 1** SCE> プロンプトに **reload** を入力して、Enter を押します。
確認メッセージが表示されます。
- ステップ 2** Y を入力してリブート要求を確認し、Enter を押します。

SCE プラットフォームをリブートする例

次に、システムをリブートするコマンドの例を示します。

```
SCE# reload
Are you sure? y
the system is about to reboot, this will end your CLI session
```

SCE プラットフォームのシャットダウン

電源を切断する前に、SCE プラットフォームをシャットダウンする必要があります。シャットダウンすると、SCE プラットフォーム内の不揮発性メモリ デバイスが適切に消去されます。



(注) SCE プラットフォームをリブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションがロードされ、実行コンフィギュレーションに対する変更がすべて失われます。「設定値の保存と変更」(P.7-6) の手順に従い、リロードの前に実行コンフィギュレーションを保存します。

- ステップ 1** シリアル コンソール ポート (サービス コントロール モジュール (スロット 1) の前面パネル上の CON コネクタ。9600 ボー) に接続します。
SCE# プロンプトが表示されます。
- ステップ 2** **reload shutdown** を入力します。
確認メッセージが表示されます。
- ステップ 3** Y を入力してシャットダウン要求を確認し、Enter を押します。

SCE プラットフォームをシャットダウンする例

次に、システムをシャットダウンするコマンドの例を示します。

```
SCE# reload shutdown
You are about to shut down the system.
The only way to resume system operation after this
is to cycle the power off, and then back on.
Continue?
Y
IT IS NOW SAFE TO TURN THE POWER OFF.
```


**(注)**

SCE プラットフォームを電源切断状態から回復するには、物理的に電源を切断する（または電源をオフ/オンにする）必要があるため、このコマンドを実行できるのはシリアル CLI コンソールからのみです。この制限により、Telnet セッションからこのコマンドを発行したユーザが、SCE プラットフォームに物理的にアクセスできないことに気づくことがなくなります。

■ SCE プラットフォームのシャットダウン